

小原さんは安来市の旧布部村出身で、旧制松江高校を卒業後に上京しました。

地元選出国会議員の秘書などを務める中で島根県が抱えるさまざまな課題に目を向けることとなり、「自分もいずれは地元のために何か貢献したい」との思いを募らせてきました。夫の転勤で移住したブラジルでの生活や、突然発覚した胃がんによる闘病生活の中でも、ことあるごとに故郷の情景が思い浮かび、支えになったと言います。

2019年に夫が他界して遺産を相続し、その5千万円を島根県出身の学生のために役立てようと、奨学金の創設を思い立ち、育英会と協議を重ねてきました。小原さん自身が故郷の思い出に支えられてきたことから「子どもたちにも有形、無形に島根を愛してほしい。奨学金をきっかけにその思いが少しでも芽生えればうれしい」との思いがこもっています。